

研究が進む国際ハイウェイ日韓海底トンネル

佐々保雄——北海道大学名誉教授・日韓トンネル研究会会長

今、九州の北端、唐津の町近く、呼子という所で、日夜ダイナマイトの音が大地を揺がしています。朝鮮海峡に向かって下りている斜坑の坑底からです。これは日本と韓国とを結ぶ海底トンネルの試験のために、今日この頃、二百メートル近く掘り進んでいます。

日韓トンネル実現への道

この、両国間にトンネルをという考えは大部分以前からありました。日本国有鉄道の湯本昇さんは、一九四一年に『中央アジア横断鉄道建設論』といった本を出して、その考えを世に問うておられますし、その同僚の渡辺貫さんたちは実際に、海峡、その一部ですが、調査を行い、また桑原弥寿雄さんは具体的な大陸横断の計画を立て、実地踏査もしておられます。しかし、太平洋戦争が始まってそれからごくでなくなり、話も立ち消えになってしまいました。

しかし、敗戦後、日本の国力が恢復するにつれ、日本の国土の再開発は到る所で行われ、一部の人は再び大陸と日本を結ぶという夢を抱き始めました。目標は「東京からロンドンへ」の合言葉です。大林組という大きな建設会社はその社報『道』にその構想を描いて

います。しかし、実行しようという人は現れませんでした。

ところが、一九七八年十一月韓国で開かれたある集まりで、韓国人の牧師の文鮮明さんが、世界に平和をもたらす手段として、各国を結ぶハイウェイを造りましようと呼びかけられました。その叫びに応じて日本にも国際ハイウェイを研究する会ができ、調査や研究を始め、その実現に向かって努力しています。

青函トンネルで鍛えた技術を土台にして

この道の最も困難な部分は、日本と大陸とを隔てている朝鮮海峡で、その幅は途中に舌岐や対馬の島々がありますが、大たい二百キロメートルあります。もちろん、大陸に渡るには船もありますし、飛行機ならひとつ飛びです。しかし、道路があれば車などで何時でも誰でも往来できます。その一部の浅い所は橋にするにしても、大部分は海底下のトンネルになりましよう。そんな深く、また遠い距離にトンネルなんて思うかも知れませんが、現在の日本の技術では不可能ではありません。距離は短い、青函トンネルを掘った実績があるからです。

この青函トンネルは、一九四六年にさつき

名の出た桑原さんたちがいい始めたもので、一九五四年に実際に掘進にかかり、一九八五年には貫通して北海道と本州が結ばれました。この津軽海峡は東西二か所で狭くなり、両方ともその幅は二十キロメートルほどですが、西口の方が水深百四十メートルと浅いので選ばれました。途中は新第三紀の砂岩や泥岩、凝灰岩などの比較的軟らかい岩石の外に玄武岩や安山岩など火山岩もあり、断層で破碎された部分やこれに伴って出水もあり、困難を極めました。しかし、いつも工夫と努力でこれを乗り切り、全長五十四キロメートル、世界最長の海底トンネルを完成させました。遠からず新幹線が走るようになると、今、特急と青函連絡船で東京・札幌間十七時間ほどかかっているのが、六時間たらずになり、ランチは東京で、夕食は札幌でということになります。海峡の幅は違いますが、この青函トンネルで鍛えた技術を土台にすれば、朝鮮海峡にもトンネルを通すことができると、皆信じています。

日韓トンネルがひろげる世界平和の輪

現在、研究の仲間たちは、「どんな列車を」「どこを通すか」などで討論を重ねています。

将来、自動車の機能がより発達するまでは、ヨーロッパ・アルプスのシンプロントンネルのように、車は台車に乗せて走る（カートレイン様式）ことになりましょう。

次に、どこを通すかの問題ですが、九州の呼子から杵岐までは、トンネルでなく、橋にすることも、経費は倍ほどかかりますが、可能で、潮風に吹かれながらの三十キロメートルのドライブは爽快に違いありません。

杵岐から対馬までは幅六十キロメートルほど、深さも百六十メートルあって、どうしてもトンネルということになります。対馬から韓国へも六十キロメートルを越し、水深も最も深い所で百六十メートルあります。

こうして、九州から韓国の巨済島まで、全部をトンネルにすると、二百三十キロメートル、世界最長のものとなります。

また、どんな列車をという点では、日進月歩の今日、いい切れませんが、将来の長距離の乗物として考えられている磁気浮上様式にすると、時速を仮に四百キロメートルとして、三十分ちよつとで大陸に渡れます。

このようにして、このトンネルができると、誰でもいつでも自由に往来できるようになります。お隣の韓国の人とは一そう仲よくなります。東洋の平和と文化の向上のために助け合えることでしょう。その輪が次第に広がって、世界の平和へととなると、このトンネルは、正に世界平和への大道の玄関口です。その完成の日を私たちは一日も早くと待っています。

日韓トンネル縦断面図(案)

